



大震災から1年以上が経過した現在も、一向に進まないガレキ処理を少しでも早く終わらせるために、全国各地での広域処理を推進しようとしています。が、なかなか進まない厳しい状況も報道されています。

3月の広報でもふれましたが、新得町は「施設の処理能力に無理があることから、現状では受け入れ出来ない」として北海道庁へ報告をしています。

原発再稼働の可否についても安全性の不安からなかなか進んでいなく、電力不足が懸念されますが、原発がなくとも不足しないとの声もあります。

道内においても、広報が届く頃には泊原発が停止し、今後の生活の中で「あまり気にしないで使用していた電気」が、「今まで以上の節電、もしくは計画停電を含めた電気の使用」になること

町長室から こんにちは

新得町長 浜田正利



雨の日も変わらず通学路に立ち、子どもたちにやさしく声をかけ続ける成田さん

顔のそと

No.365

私自身がお年寄りや子どもたちからパワーをもらうことで元気づけられている

「おはよう、いつてらっしやい、早く行かないと遅れるよ」などとやさしく声をかけながら、子どもたちの安全を守るのは、新得すきやき隊の目配り隊員として、雨の日も吹雪の日も通学路に立ち、登校を見守り続ける成田春子さん。

成田さんは清水町熊牛で酪農業を営んでいた家庭に生まれ、9人きょうだいの長女として育った。

「両親は忙しすぎて会話する暇もなく、私の知識の中のものはお、おじいちゃんおばあちゃんだった気がします」。

「小学校に入学した時、1年生は男が9人、女は自分一人だけだったし、戦時中だったので、祖父母からも追いつけず出て身ぐるみ剥がされた人もいるという話を聞かされていたし、暗い山道を通るのがイヤで、泣きながら学校に通ってましたね」と昔を振り返る。

中学は、屈足の石山さんの家に移住した形にして住まわせてもらい、屈足中学校に通った。牛乳

とも考えられます。また、火力発電のための燃料購入が電力会社の経営を厳しくしている報道もあります。電力不足や電気料金の値上げは、日常生活はもとより、経済全体にもどんな影響が出てくるのか、今まで以上に注視していく必要があると考えています。

先月後半に太陽光、風力など再生可能エネルギーの買い取り価格と期間(案)が公表されたところですが、新得町においても小水力発電、バイオマス発電に関して議論を深めていきたいと思います。

道東道が道央と繋がってから初めての夏の観光シーズンを迎え、今までの以上のお客様が十勝に來られるのではと期待の聲が上がっています。

転勤族のある方から、十勝には新得町も含めて魅力的な場所や食がたくさんあるけど、宣伝が今一つだと言われました。では、具体的な宣伝方法は、最終的には自ら地道な努力をして行く事が一番ではとりました。しかし何となくスッキリせず、何か方法が無いかと悩んでいます。

同時に、新得観光協会の事務局体制を一部見直し、今まで以上に観光振興が図れないかと考えており、具体的に現在現場職員が担っている事務局を、全国から募集した専門のスタッフを配置して対応していく方が良いのではないかと考えています。

今後、関係者と協議を進め、一つの目安として秋には当面の体制を整えたいと思います。いかがでしょうか？



成田 春子さん (75歳) 西栄会

の缶を3本ほどリヤカーに積んで、屈足の街にあった集乳工場まで運んでから学校に通っていたという。

中学校卒業後は、実家の酪農業を手伝い始めた。当時は馬2頭引きのプラオで畑を起こしたりの毎日、オシャレすることもなく男みたいにはちまき姿で作業していたので、周りの人に『お宅はいい若い衆が入ったね』なんて言われたりと笑う。

18歳の時、豆殻積みをしていたら高さが5mほどある豆殻の山のでっぺんから落ちてしまい、しばらく寝たきりだったという。それが原因で、ずっと坐骨神経痛に悩まされてきた。

昭和24年、国鉄に勤める唱一さんと結婚し、2人の男の子に恵まれた。初めて唱一さんを見たとき、「こんなかかない人の所に嫁に来る人の顔が見てみたいと思っていたら、いつのまにか嫁に行っていたのは私だったんです」と照れ笑います。

新得すきやき隊としての活動は、平成18年の発足当初から。「私の人生子どもの頃から色んな人にお世話になってきているので、何か子どもたちにできないかと思っていました。そんな時に、目配り隊員を募集してい

短歌

新得短歌会

眠りつつ育つ嬰兒を抱きおれば
忘れ掛けたる幸せ匂う 高橋 幸子

一日の経過すことの容易なり
内実充たす智恵なくばなり 小関 白潮

声あげて舞う白鳥の何思やう
少女となりて孫の麗々花は 中井由利子

そば打ちに日本一と讃えらる
産学ともに花香る町 石本 洋

俳句

新得俳句同好会

啄木忌一首一首に魅せられぬ 片桐 波月

リハビリを待つ間の会話路のとうり 安楽 やす

大口をあけて風をう鯉のぼり 坂本しげる

葱さざむ母の夢見て朝寝する 高橋 民女

わだかまり解けぬいらだち春遊し 八木 育子

早春賦廃校廊下かけめぐる 大崎かずお

日高嶺いまだに見える雪崩跡 月井 愁峰

福寿草瀬音静かに土手の道 齊藤 青台

抽斗の奥に日の九昭和の日 中島 土方

人生にみつつの坂があると言ふ
つるはし振るう息はずませて 渡辺 征子

上り下りに真逆の坂と 近久 農夫

踏切りの遮断機下りて刻ながく
貨物列車のながながと行く 羽場タカ子

バックの写真：4月27日、各小学校の新1年生がサホロリゾート「ベア・マウンテン」を見学